

～幼児期は手をはなさず～（子育て四訓より）

こんにちは。地域学校協働活動推進員（家庭教育支援員）の清田智子です。職名は変わりましたが、職務内容は昨年度と同じで、家庭教育に関する情報を皆様にお伝えしたり、教育相談を受けたり、講座を開催したりしています。どうぞよろしくお願いいたします。この通信を家庭教育の参考にしていただければ幸いです。



～1歳から6歳は、しつけの黄金期、健康安全のしつけは特にしっかりと～

子育て四訓を一部紹介すると、「幼児期は手を離さず」の次は「少年期は手を離して目を離さず」と続きます。つまり、子どもが少年期（小学生）を迎える前までに、親の手を離しても大丈夫な様に育てておきましょう、という事ですね。小学生になったからといきなり手を離すのではなく、小学生までに少しずつ、身の回りのことが自分でできるように、自分の言いたいことを人に伝えられる様に、家庭でしつける事が大切と、言いたいのだと思います。

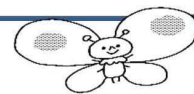
でも、しつけをしていく中で、迷う事がありますよね。たとえば、「子どもが食事中立ってうろうろする、でも、あまりうるさく言うのもよくないかも、、、」そんな風に迷った時は、健康と安全面がどうかという視点で子どもの行動を見るといいと思います。歩きながら食べたり飲んだりするという行為は、行儀が悪いという以前に、安全性に問題があります。子どもが食べ物をのどに詰まらせる事故はけっこう多いのです。なので、小さい時から「座って食べなさい」としつけるのが良いでしょう。怒ったりたたいたり、逆にニコニコして言うのは逆効果で、毅然と淡々と、繰り返し言い聞かせましょう。

これは健康に問題がある、これは安全に問題がある、と思う事は、子どもの自由にさせず、大人がよく考えて、根気よくしつけていくのが良いと思います。



言葉のしつけも大事です

子どもは、いろんな言葉を覚えてきますが、友達や少し上の子どもの言うことは、すぐに真似をします。その中には、悪い言葉も当然あります。悪い言葉を使っていたら、大人がすぐに反応しましょう。黙っていたり、ニコニコして聞いていたりすると「使って良い」と思ってしまい、後で注意してもなかなかおきません。「バカ」「しね」「うざい」などのネガティブな言葉を使ったら、「そんな事を人に言うてはいけない」「そんな言葉は、嫌い。言うてほしくない」「そんな言葉を言うなんて悲しい」などしっかり伝えてあげましょう。優しい子は、使う言葉も優しいものです。



教育相談をお受けします

子育てで悩んでいませんか？
市役所の相談室でお話を伺います。お気軽にお電話下さい。

地域学校協働活動推進員

（家庭教育支援員）

清田智子

生涯学習課 25-7232